

市長の平成22年度施政方針に対する

代 表 質 問

市長の平成22年度施政方針が報告され、各会派の代表質問を行いました。質問・答弁ともに質問者が要約しています。

自由民主党

吉川市議員団
齋藤 詔治

(問) 市民にゆとりと豊かさが得られる為、どの様なビジョンや考え方で市民の生活向上を中長期的に図っていくか。(答) 市長 多様な魅力を備えた活力ある都市で、市民が愛着と誇りの持てるまちにし、経済の活性化や都市基盤・産業基盤づくりを進め、市民との協働によるまちづくりを推進。

(問) 恒久的な自主財源に、市街化区域は、市全体面積3162haの3分の1に拡大を、10年から15年内に。(答) 正がなされ、非常に難しい今日ですが、吉川美南駅周辺63ha、東埼玉テクノポリスの拡張等、第4次総振により粘り強く進めています。

(答) 市長 営委員会答申を尊重し、平成22年度から細部の計画実施、用地取得に向け取り組みます。健全育成は地域と学校と家庭

が一体となり、子ども達を支援していくことが重要です。

学校では、それぞれの特色を生かした、発達段階に応じた様々な体験活動や道徳教育、地域と連携した補導活動・啓発活動に努めています。

(問) 吉川橋架替えに伴う、仮設橋設置へ積極的な対応を。(答) 市長 取付道路や工事費用等の問題を含め、県の予定はなく、吉川市が実施するには、全て市の負担になり難しい。

(問) 災害に強い街づくり・防犯対策の強化・地球温暖化防止対策・自然環境の保全と不法投棄防止等、市民との協働による街づくり促進のためNPO法人等への財政支援を。(答) 市長 自治会をはじめ市民活動団体にご協力を頂き様々なか協働事業を実施、各団体が自立してまちづくりの担い手となるよう支援育成に努める。

(問) 吉川美南新駅周辺開発とビジュヨン及び権利者への対応。(答) 市長 平成22年度の都市計画決定は非常に難しい。各種都市機能を備えた複合拠点の形成を目指し鋭意努力、所有権者へは、事業面積など県との調整が整い次第対応。

市民改革クラブ

稲垣 茂行

(問) 21年度補正で、市内小中学校校舎の耐震化は完了。22年度からは「体育館」へと移るが、具体的な計画は。(答) 市長 平成22年度に小学校5校の耐震診断を実施し、耐震性の低い体育館から工事を進め、27年度に完了する予定。

(問) 保育所の待機児童解消への取り組みは。(答) 市長 21年度に続き22年度も大幅に増加、特に1歳保育は急増している。

一定数の弾力化を活用し、最大限確保しているが、待機児童解消に至っていない。新たな保育所の整備へ向け、民間保育園への支援に努める。

(問) 食育推進計画のポイントと具体的取り組み内容は。(答) 市長 生涯にわたり心の豊かさを実感できる「人づくり・健康づくり・まちづくり」を基本にしている。市民への関心を高めてもらうため、「食育フォーラムの開催」や食の情報報を掲載した「食育マップの作成」、保育所・小中学校で

の体験活動学習を行う。また、「地産地消」の推進では、給食での吉川産食材活用と農業生産地を巡る、ウォーキング大会で、生産者と消費者の交流を図る等、食育を推進する。

(問) 栄町・保・南中周辺及び吉川駅北口周辺地区の治水対策、被害軽減対策は。(答) 市長 将来的には「調整池」整備を検討していきたい。短期的には、22年度に駅南調節池が完成することから、第2大場川の水位上昇が押さえられることで、被害は軽減されると考えている。

駅北口周辺については、共保雨水ポンプ場の整備を国に要請し、木壳落し雨水調整機能を活用して被害軽減に努める。1時間当たり50mmの降雨に対応できるよう、計画的に総合治水対策を進めていく。

(問) 駅南「新設小学校」の概要と開校スケジュールは。(答) 市長 敷地面積1万8千m²普通学級24クラスで複合施設を想定。22年度に基本設計を行い、23年用地購入。23～24年建設、25年4月開校の予定。